



おやこ  
親子クラブ



代表 白石 深納子

住所 〒328-0074 栃木県栃木市菌部町4-2-21  
TEL 0282-23-4958  
FAX 0282-23-4958

### ❀ 目 的 ❀

少子高齢化社会の中、経済を活性化し、安定した社会を整えていくのは大変難しい課題だ。そのためには、遠回りのようでも、未来の社会を創造していく能力をもった子どもを育てていくことが必要である。その子ども達を育てていく役割を担っている母親をサポートしていくことを目的とする。

- ① 栃木市、小山市またはその近隣市町村に住んでいる家族を対象に、育児中の親と子が孤立しないよう、親同士のコミュニケーションの場、情報を交換する場を作る。
- ② 子どもには、親の見守りサポートのある環境の中でハンディキャップのある子どもを含めて、異年齢の子ども達がコミュニケーションをとりながら、自分たちの発想で遊びを創り上げていく体験の場を作る。

### ❀ 事業内容 ❀

- ① 自然の中での自由な遊びと創造（秘密基地づくり、農業体験、雑木林での活動）
- ② 高齢者から昔の知恵や技術、遊びなどを学ぶ（竹とんぼ作り、竹馬作り など）
- ③ 母親を中心に育児に関わる勉強会や座談会
- ④ 自由造形（クラフト、手芸、木工 など）
- ⑤ 親子料理教室
- ⑥ 活動の拠点づくりと環境整備
- ⑦ 絵本の読み聞かせ
- ⑧ わらべうたや昔の遊び、鬼ごっこ



## ❁ 活動報告 ❁

- ①定期的にイベントを開催することで、参加する親同士が顔見知りになり、回を重ねるごとに親しくなり、それぞれの子どもを見守る体制が整った。
- ②子ども同士も親しくなり、異年齢、地域差、支援の必要の有無に関わらず、仲間意識が生まれ、コミュニケーションをとれるようになった。
- ③子ども達は自由造形や遊びを通して、本来の子どもらしい感性を育むことができ、親たちはその間、孤独な子育てから解放された。
- ④助成金を使って中古プレハブを購入することができ、各自分担して持っていたあおぞらの備品をプレハブに置き、活動の拠点が整った。プレハブでは、母親の会議をしたり、イベントに使う材料の制作をしたり、母親のための勉強会(先日はパステル画を学びました)を行えるようになった。

利用者からは、「家にいると家事が気になって寛げないが、ここに来ると、ゆったりと過ごせる。」「信頼できる仲間に相談ができてよい。」等の声が上がっている。

## ❁ メッセージ ❁

信頼できる人間関係の中にいると、心が落ち着き、子育ても楽だと思える。今年から福島より移住した親子がメンバーになった。体調を崩されたり、ストレスも多い様子で、移住者親子も支えていけるようになりたいと思う。

助成金に頼るだけでなく、自分たちで工夫し、自立してやっていければと思う。今に安住することなく、常に学び、前進していけるグループでありたい。





# ほほえ 頼笑みの会



代表 山下 領子

住所 〒328-0012 栃木市平柳町2-6-32  
TEL 0282-27-3384  
FAX 0282-27-3384  
E-mail y-ryouko@cc9.ne.jp

## ❀ 目 的 ❀

「地域の茶の間」頼笑みの会 ～生き生き、生涯現役～

2,000年から介護制度がスタートし、介護指定の事業が誕生した。一方、制度的な隙間では、事業者の提供介護からもれるニーズも増えてきた。そこで、「自分たちで何か出来ないか」そのうち、家族をはじめ、他人の手助けや介護に頼らざるをえない日があることも確実。「では、それまで元気でいよう！」 様々な人と出会い、生き甲斐をもって一日も長く健康を維持して暮らしていこう！ 地域の交流の場、みんなの居場所づくりとなった。

「誰かと話をしたい」「家に居て何もすることがない」「家族の中で一人ぼっち」「1人での食事はさびしい」このような声に答えて、平成16年12月4日、頼笑みの会を立ち上げた。月2回、午前10時から午後3時まで、愛称「ほほえみサロン」を開いている。

目的＝自主、奉仕、助け合い、交流を目的とする。

目標＝地域みんながボランティア精神で、年齢を問わない交流の場をつくる。

目標を達成するために＝・会員同士の助け合い

- ・自分や家族に支援が必要になったとき、地域の手助けを頼めるための情報交換の場として、集う場、しゃべり場をつくる。

## ❀ 事業内容 ❀

参加者が、気楽に過ごせる、居心地のよい場づくり。一人ひとりを大切に。

サロンでは、それぞれが気の向くように、テーブルの上に囲碁、オセロ、ゲーム、折り紙、小物づくり等、常時、お気に入り楽しんで過ごしていただくように配置している。

会費＝年会費1家族2,000円（ボランティア保険に加入）参加費150円 昼食代350円

お一人暮らしの方、日中一人の方、バイキング式の昼食は大好評です。

エリア＝栃木市内外、近隣 家族の送迎またはハイヤーで来場

障がい者の方も自由に参加され、自立支援の一つとして、高齢者の方と仲良しに、楽しみに参加されている。施設入居されている方も参加され囲碁を楽しみにされている方も。

お茶、コーヒー、お菓子はコーナーへ 自由に。

年間行事として、本年度は、1月総会、お楽しみ会 2月折り紙、ビデオ視聴、3月そば打ち会、お抹茶を楽しむ。 4月お花見、草もちづくり 5月花壇に花植え 6月1泊旅行 7月ゲーム大会 8月ぶどう狩り 9月出前講座、彼岸おはぎづくり 10月協働祭りに参加 11月合奏で楽しむ、とちぎ秋祭り見物 12月お昼ご飯を皆で作ろう、クリスマス会

常時、時間を見計らい、折り紙教室は季節折々のものを、歌、語り部、朗読、すべて会員さんの中から自分ができることを、教えあい、助け合い、支え合いながら指導していただき楽しんでいきます。また、サロンに寄付していただいた、布、毛糸、牛乳パックなど利用して小物づくりをし喜ばれています。

## ❁ 活動報告 ❁

26年1月19日頬笑みの会は第九回総会の運びとなりました。10年目を迎え、皆様からのご支援があったからこそと感謝しています。同友会様からも22年度に助成金50,000円を頂きました。初めての助成金で、一番必要としていました、プロゼクター1式（スクリーン、アンプ）購入いたしました。イベントのたび、借用していましたが、今は、サロン開催の日はカメラに収め次回に参加者の皆さんにお見せしています。参加者の皆さんは（最高96歳3名）アクセサリーをつけ、おしゃれをして見え感動しました。重過ぎるのが難ですが、大変重宝しています。

翌年23年に50,000円、再度頂きました。今回は頬笑みの会の主旨は、年齢を問わない交流の場をつくるということで、「つどって・しゃべって・いも煮でつながろう！」河原での芋煮会はなかなか許可が出ず、コミュニティ会館をお借りすることになりました。参加者64名。豚汁におにぎりのメニューで、皆で食べる喜びは格別でした。会食後は、演芸大会でハーモニカクラブの皆さんで幕を開け、民謡、マジックとあったかい交流が出来ました。

このような場に参加する意義は大きく、皆さんの生き生きとした笑顔が印象的でした。

外出がままならなくなって、人間関係が少なくなっている高齢者や、障がいをもつ人、子育て中の親子、多様な人が年齢や差別に関わらずライフスタイルに合わせ社会参加されている。高齢者の場だけでなく、地域における子育て支援、子育てを家庭のみに負わせるのではなく、子どもたちを地域において、温かく見守り、支えられる環境づくりを進めていかねばならない。世代間交流では、学ぶことの楽しさ、大切さを理解し、子どものうちから、社会のあらゆることに興味、関心を持ち、自らが考えることが出来る場でもあります。

これからは、お互いに声を掛け合い、気づき合う社会であれば、地域の誰もが安心して暮らせるまちづくりとなるでしょう。最後に頬笑みの会のパンフレットは助成金で市内に配布することが出来ました。どこかで、パンフレットに目を留めていただければと願っています。

## ❁ メッセージ ❁

近年、少子高齢化と言われるようになって、高齢者と若者との世代間交流の機会はほとんど見受けられなくなりました。人間社会では、基本的に知識、技術、価値観を継承していく過程で世代間交流は欠かせません。高齢者にとって年齢を問わない交流の場は、生き甲斐、介護予防、孤独解消となります。これらの重要な役割を「頬笑みの会」は果しています。

それぞれの地域において、すぐそばに「地域の茶の間」ほほえみサロンがあることを願っています。



牛乳パックでエコ手芸「銘々皿」



第九回総会



お花見



針と糸の扱いが不器用な子どもたちを見守る

# ほうじん NPO法人 とちぎ げきじょう 栃木おやこ劇場

代表 理事長 森田 信子

住所 〒328-0051 栃木市柳橋町11-20  
 TEL 0282-22-7062  
 FAX 0282-22-7062  
 E-mail t-oyako@cc9.ne.jp  
 URL <http://www.cc9.ne.jp/~t-oyakogekijyo/>

## ❀ 目 的 ❀

この法人は、栃木市民及び隣接する市町村の住民に対して、幼児、青少年、おとなを対象に、文化活動、社会活動の機会の充実と振興を図ることによって、子どもの豊かな成長に寄与することを目的とする。(定款より)

**合言葉は！とびっきりの子ども時代を！**

**ふだんできないワクワク体験がおやこ劇場にはあります。**

おやこ劇場は「子どもに夢を・たくましく豊かな創造性を！」と願い、さまざまなジャンルの舞台を観たり、“みんなで遊ぶ体験”を大切に活動を行っています。

「豊かな文化は人と人との心をつなぎ、思いやりや勇気を育ててくれる…」という思いがあります。生の舞台をおやこで楽しむ時間を通して、今しかない子ども時代を、とびっきりたのしいものにしませんか？

本年度は、わくわく子育てシリーズとして、「子どもの虐待防止と母親の居場所づくり」にも取り組み、子育て中のお母さんたちのサポートする活動もしています。

## ❀ 事業内容 ❀

### 舞台鑑賞

1年に4～5回、演劇・音楽・人形劇など、さまざまな分野の舞台を鑑賞します。すぐれた文化芸術に触れることで、心と本物を見る目が育ちます。



2014年2月2日 鑑賞予定作品



2014年5月11日 鑑賞予定作品

おやこ  
体験活動

頭も体もフルに回転させて遊びます。おやこ劇場で出会った仲間とともに、家族ではできない五感を使った、わくわく体験をたくさんします。スノーキャンプ・収穫祭・ダンボールキャンプなど



ダンボールキャンプ



収穫祭

就学前の親子サークル  
ゆ・る・く

ゆっくり・るんるん  
子育てくらぶ！  
未就学の子どもをもつママたちのサークルです。季節の行事を親子で一緒に遊んだり、ママたちに育児講座を開いたりします。



さつまいもほり



ぷちゆるく うんどうかい

他団体との活動

地域のつながりを大事にしているので、お祭りなどにも積極的に協力しています。



あそびな祭り  
蔵の街に忍者現る？！



協働まつり  
ハロウィン・キッズワーク

# こくさい 国際NGO いっくら国際文化交流会

代表 会長 長門芳子（創設者）

住所 〒320-0065 栃木県宇都宮市駒生町3351-50

TEL 028-625-0050

FAX 028-625-0050

E-mail iccla@sea.plala.or.jp

URL <http://www8.plala.or.jp/iccla>

## ❀ 目 的 ❀

1982年2月、夫の転勤で東京から宇都宮に戻った創設者の熱い思い「この地に国際的なボランティア活動を根付かせたい」と新聞・ラジオの呼びかけで仲間を募り、良き指導者とバイタリティ溢れる主婦仲間を得て、1983年6月6日設立総会。「国際交流」が市民権を得る夜明け前だったが、「国連婦人の十年-1976~1985年」という世界的な新しい波に背中を押され、主婦達の草分け行動は、世間の関心を集め、生活者のしなやかな平衡感覚で活動を開始した。

「いっくら」とは、会の英語名：Inter-Cultural Community Life Association の頭文字 ICCLA を平仮名表記「地域から草の根の生活文化の分かち合いを目指したグローバルな活動をする」の意を込め、三輪公忠いっくら特別顧問、港ユネスコ協会長、上智大学教授が命名。

「Global Thinking Local Action-地域の中で今、できることから」を合言葉に、ユネスコ精神を基本に、来日中の外国人と日常的な触れ合いを持ち、地域の独自性を活かした国際理解・交流・協力の草の根ボランティア活動を通して、地域の繁栄と国際化推進、世界の平和と繁栄に貢献することを目的とした。

## ❀ 事業内容 ❀

### 『地球家族のきずな求めて-いっくら発・世界へ31年』

- (1) 1987-2013年度「日本語ボランティア養成&在住外国人の日本語支援」県内初、27年間。
- (2) 1988-2007年度「いっくら日本語スピーチコンテスト」県内初開始、恒例事業20回開催。
- (3) 1992-2005年度「外務省長期青年招聘事業」文化第二課・人物交流室受託：来日直後の北東・中央アジア研修生への日本語・日本事情研修、学校交流、行政・企業視察、陸奥研修旅行、ホームステイ、緊急時対応研修等の日程アレンジ・研修実施協力。14年間、13カ国180名の研修生。栃木県内・東北の歴史・文化・伝統他日本事情研修。行政・大学・企業・NGOの協働モデル構築。
- (4) 1986~2012年「外務省各種青年招聘事業」他のホームステイ受入実施協力26年。130余国文化第二課受託（青年外交官日本語研修生年末年始）、中近東第1・2課受託（中近東青年招聘者）、中国・韓国課受託（両国青年招聘者）、儀典室と共催（駐日大使館勤務外交官と家族）。国際交流基金受託（EU研修生、中近東青年文化人、フェロー招聘者）、日本国際協力センター（JENESYSモンゴル・中国・台湾高校生）、アジア学院研修生、留学生、姉妹都市訪日団（マヌカウ・タルサ・オルレアン市民）
- (5) 1990-2011年度 Tokyo Fulbright Association 受託「日光・宇都宮ホームステイ」21年間
- (6) 県立・私立高校で学ぶAFS・ロータリー留学生への週1回日本語講師派遣協力 14年間
- (7) 「ひまわり親子で日本語サロン」子育て中の国際結婚ママの日本語・子育て支援 10年間
- (8) 宇都宮大学留学生支援&県内小中学校他の「国際理解講座」母国紹介講師派遣協力25年間

- (9) 宇都宮大学当時の学長に国際舞台で活躍する人材育成「国際キャリアセミナー」開講を提案  
 2004年9月第1回セミナー開講時は企画実行委員：講師提案・紹介、後援団体で10年間  
 第1回基調講演講師：五月女光弘 外務省参与・NGO担当大使、第2回明石康 元国連事務次長  
 第3回神長善次 大阪担当大使、分科会講師：報道関係・国際機関・日本語教育・NGO関係者

## ❀ 活動報告 ❀

- (1) 県内各地域で活躍する日本語支援者・ボランティアリーダーの養成に貢献した。  
 (2) スピーチ集『外国人が見た日本』は、モンゴルの大学で教材として活用されている。  
 (3) 1992・1993・2001年度外務省招聘モンゴル研修生が「ウランバートルいっくら」設立。  
 日本のいっくら基本理念を受け継ぎ、モンゴル国際NGO登録、本格的に活動を開始した。  
 (4) 外務省各種青年招聘者のホームステイ受託協力で知日派知識人育成、今各国で活躍中。  
 ★「宇都宮国際キャリア合宿セミナー」は、国際舞台で活躍する人材育成事業として毎年実施中。  
 ★2011年9月16日～28日、国際交流基金「知的国際会議」公募助成金取得公募大学生同行。  
 国際キャリアセミナー「モンゴルへのインターンシップ研修」ウランバートルいっくらと  
 協働。訪問団10名、大学の日本語授業・学生対話集会参加、中・高校訪問：日本紹介、外  
 務省・JICA・大使館訪問。  
 ★2012年6月『日モ国交樹立40周年＆創立30周年＆草の根交流10周年記念事業』実施。  
 駐日モンゴル国大使を講師に迎え「国交樹立40周年の文化交流の成果と今後の課題」で記  
 念講演頂いた。6/16～25モンゴル訪日団9名を10日間招待、様々な交流を深めた。  
 ★宇都宮ユネスコ協会支援：役員高齢化で休眠中の組織活性化&再生に総力で貢献30年間  
 ★助成金の活用「ひまわり日本語サロン」子育て中の外国人ママの日本語・子育て支援経費。  
 ★「いっくらコスモス英会話ー日本語支援者・ホストファミリーのための日常英会話」毎水  
 曜午前  
 ★多文化共生新事業①「日本語De交流サロン」外国人ママ、②「ワールドカフェテリア」  
 留学生：実践日本語・日本事情指導、悩み事相談、常夏の国からの留学生に、冬物衣類、寝具、  
 湯たんぽ、日用品支援  
 ★出版活動：①機関紙『いっくら』No1～No114発行 ②『モンゴルと日本の昔話』モンゴ  
 ル語・日本語対訳・シリーズ7出版、毎回モンゴル日本語教師会と日本語学習者に寄贈。  
 ③日本語副教本出版『研修生が見た日本』外務省研修生レポート。『外国人が見た日本』  
 日本語スピーチコンテスト20回上位入賞スピーチ集～異文化・日本語・教育・家族・地球  
 環境・私の街・21世紀への夢～国内外日本語学習者に寄贈：生教材がいっぱいと好評！



1995年6月6日発行  
日・モ語対訳



2005年3月30日発行  
日本語副教本



2009年6月6日発行  
日本語副教本



機関紙『いっくら』114号  
2012年6月6日発行

## ❀ メッセージ ❀

人とのチャンスとの素晴らしい出会いは人生を何倍も豊かにする。創設者が東京で港ユネスコ協会設立準備から婦人活動委員長として活躍したことが、会創立に繋がり、ユネスコ活動で出会った縁から、幾多の貴重なチャンスを得てネットワークを広げ、31年間活動を継続。  
 これからも「地球家族のきずな求めてーいっくら発・世界へ」草の根国際貢献の限りない可能性へのチャレンジを「汗と涙と感動を分かち合う仲間」と共に「熱い思い・Passion&使命感・Mission&ボランティアの誇り・Pride」で「いっくら地球家族の絆」を更に深めたい。





# アトリエびっき

代表 加藤 美智子

住所 〒322-0003 栃木県鹿沼市仁神堂町346-2

TEL 0289-60-6677

FAX 0289-60-6641

URL <http://www6.ocn.ne.jp/~bikki/>

blogびっき日記 <http://bikkim2726.blog.fc2.com/>

## ❀ 目 的 ❀

本会は、児童文化向上のため、あらゆる児童文化財を使い、おはなしを様々な形で表現し子どもたちのこころづくりの推進を図り、多面的な企画を推進します。また、この時代にふさわしい先駆的であつ、具体的なおはなし教育事業を展開する事で、広く青少年の健全育成、および社会貢献を果たす事を目的とする。

## ❀ 事業内容 ❀

- ① 表現媒体を使った公演
  - ・人形劇・パネルシアター・エプロンシアターなどをつかった巡回公演
- ② えほん出前講座
  - ・絵本の読み聞かせ養成講座（那須塩原市・日光市・高根沢町・下野市・栃木市・佐野市・群馬県など）
- ③ 全国語りネットワーク活動
  - ・語りの口演を定期的で開催（隔月末の土曜日夜）
- ④ 赤ちゃん和妈妈・パパのための子育て教室



赤ちゃん和妈妈のための教室  
0ヶ月～2歳まで

昔話を中心とした人形劇作品  
『さんびきのくま』



語りの公演  
『いろりかたり』

## ❁ 活動報告 ❁

- 人形劇公演活動（年間30ステージ以上）
- 国民文化祭参加（栃木県・鳥取県・茨城県）活動
- 子育てサロンむけおはなしと人形劇公演活動
- 東北応援公演活動（年1回・連続3年目10ステージ）
- つぼみちゃん教室おはなし会
- 南那須図書館おはなし会
- フリースクール演劇指導と公演指導
- 千葉県三作品のDVD制作
- 表現遊びに関する事業活動
- 栃木県経済同友会子育て助成金受託活動 など



こたろう座公演  
『こたろう物語』指導



2012年新作『ホッレおばさん』  
グリムのむかし話より

### 人形劇作品

- ① ホッレおばさん（2012年）
- ② だんごどっこいしょ（2011年）
- ③ きんのたまご（2007年）
- ④ さんびきのくま（2006年）
- ⑤ やまぶしとおひゃくしょう（2006年）
- ⑥ ねずみのよめいり（2005年）
- ⑦ さんびきのこぶた（2004年）
- ⑧ ねずみのすもう（2001年）

ほか多数

## ❁ メッセージ ❁

子どもは“おはなし”が大好きです。TVゲームやPCゲームに夢中の子どもたちも本来はおはなしや人形劇が大好きなのです。特に昔話には、人間が生きてゆく上で必要な善悪の判断や他人を想う心など知恵と勇気が折り込められています。先人たちは、おはなしという人と人との関わりの中で生まれたこの媒体を通して、子どもの心を育み育てたのだと思います。

見えないこと、見えないものに敬意を払い慈しみ育ててゆく…心を創ってゆく行為は人間だけに与えられた奇蹟です。「三つ子の魂百までも」のことわざにもあるように、生まれたての赤ちゃんのうちからお話に親しみ、愛されはぐくまれ育った子は、やさしい思いやりのある想像力（創造力）のある人間になると言われています。

これからも、お話の持つ魅力を最大限に生かした公演を末永く続けたいと思います。



# とちぎ しろうどく 栃木市朗読ボランティアの会「あかり」

代表 会長 出井 敏江

住所 〒328-0027 栃木県栃木市今泉町2-1-40 保健福祉センター社協内  
TEL 0282-27-8768  
FAX 0282-27-8768

## ❀ 目 的 ❀

私たちの会では、視力に障がいのある方や目から情報を取り入れることが困難な方に、栃木市の身近な情報を録音し、テープ、CD、カードにより発送しています。

創立前、視力に障がいのある方たちからの要望を受け、現在に至ります。

視力に障がいがあっても、身近な生活、変化していく栃木市の街、行政、生活、支援の在り方等に役立てていただければ幸いです。テープ、CDを聞いて、社会生活の参加と自立の一助となればと思います。このテープ、CDは無料であり、広報課、社協、福祉政策課は、あかりへの連絡で、いつでも聞いていただけるようになっています。

## ❀ 事業内容 ❀

「あかり」は、昭和50年5月創立から38年間にわたり、毎月情報テープ、CDを録音、発送しています。この活動は、一度も欠くことなく、毎月聞いていただいている方にお届けしてきました。皆様に安心と生活の一部としていただけるよう、努力してまいりました。

栃木市からの委託を受け、毎月『広報とちぎ』を録音、発送、『あかり月刊』（社協だより、けいさつだより、新聞記事 他）、市議会だより、各選挙公報、市から発行される臨時の発行便を録音、発送しています。また、依頼図書も受けています。

## ❀ 活動報告 ❀

活動（録音・発送）

栃木市広報 毎月90分テープ2本、CD/35名

あかり月刊 毎月60分テープ1本、CD/35名

市議会だより（年4回） 90分テープ1本、CD/35名

栃木市社協主催のボランティア講座、勉強会に講師、会員の参加・協力

健康増進課「赤ちゃんだっこだっこ事業」ブックスタート参加

あかり勉強会 月2～3回 会員内での発表会 年2回 技術向上を目指す

助成金をいただいて、機械を増やすことができました。今まで3日以上かかっていた録音後の処理（ダビングや除音）がスムーズにでき、2日間に短縮しています。また、モニター作業（音がCDに入っているか確認すること）が的確に行われ、会員も機械操作に慣れてきました。テープを聞いている方が、CDに移行しても対応していけるよう、機械の充実をはかっています。

視力に障がいのある方、高齢で読むことが困難になりつつある方に、生活の情報提供ができるようにしたいと思います。



### ❀ メッセージ ❀

視力に障がいのある方、高齢で読むことがつらい方も、栃木市の"今"に参加できるように聞いていただけたらと思います。

「あかり」の会員は、聞きやすいテープ、CDを皆様にお届けするために、勉強していきます。また、私たちの活動を皆に知っていただき、利用してもらえるように願っています。



録音風景



勉強会



録音したCDやテープ



助成金で購入した機械



# ボランティア 「みなみ」



代表 代表 大塚 美津子

住所 〒322-0526 栃木県鹿沼市楡木町533-3  
TEL 0289-75-2214  
FAX 0289-75-2214

## ❀ 目 的 ❀

- (1) 到来した高齢化社会における独り暮らしのお年寄りやそれに準ずるお年寄りが、住み慣れた土地で安心して暮らせるよう、手助けをする。
- (2) 急速に進む少子化社会において、働きながら子どもを産み育てることのしやすい環境づくりをするために、子育て支援の様々な活動をする。

## ❀ 事業内容 ❀

- (1) 南押原地区社会福祉協議会の事業に協力する
  - ① 独り暮らし高齢者に、おせち料理を作成、暮れに配布
  - ② 独り暮らし高齢者やシルバー世帯で、草むしりなどの作業が困難になった方への支援事業「たすかっと」
  - ③ 未就学児の親子に対する子育てサロン「みなみなかよしひろば」
  - ④ 各種イベントに参加
- (2) 南地域包括支援センターと連携して、認知症の方への傾聴ボランティア
- (3) 特別養護老人ホームやデイサービスセンターでの傾聴ボランティア



デイサービスでの傾聴ボランティア



中学生と一緒にのおせち作り

## ❀ 活動報告 ❀

- (1) 特養やデイサービスセンターでのボランティアで、知識の習得
- (2) 交通手段のない高齢者にボランティアグループに入会していただき、会員同士の助け合いとして、病院への移送サービスの実施  
現在は、鹿沼市内7ヶ所で地区社協の事業として行っている。
- (3) お正月を独りで過ごすお年寄りの孤独感の解消の為に、おせちを作って配布。その際、中学生に参加していただき、福祉の心を養っていただいている。一昨年20周年を記念して、中学生の「技術・家庭」の教科書に載った。
- (4) 高齢者の居場所づくりとして、平成12年より地区内6カ所にサロンを立ち上げ実施してきたが、平成19年鹿沼市の「自主的にやっているサロンに補助金を出す」との命を受けて、地区内10自治会全部に、自分の町のお年寄り自分の町で支えることを理解していただき、自治会主催で実施している。
- (5) 高齢者支援事業「たすかっと」は、年齢とともに困難になってくる草むしりや家事をどんな方法で支援したらよいか、先進地へ視察に行き、「たすかっと」を立ち上げた。鹿沼市の「くらし助け合い事業」のもと、地区社協と連携し、利用者負担1時間300円、地区社協500円を協力者に払う仕組みを作った。
- (6) お元気コールは、独り暮らしで希望する方に、会員が週3回「お元気ですか？」の電話をかけ、安否の確認をした。現在は、鹿沼市全体で「シニアライフ見守り隊」が結成されている。

### 助成金の活用、利用者の声

特養老人ホームから傾聴ボランティアの要請を受け、助成金をガソリン代として使わせていただき、1年が過ぎた頃、会員から戸惑いの声が出た。施設が他地区の為、今年度から月1度にし、地元のデイサービスセンターに活動の場を移した。月の第1週は月・水・金、2週目が火・木・土と、それぞれが選択し、始めてから5カ月が過ぎた。

地元の顔見知りの方が御利用の為、話に花が咲き、アッという間に時間が経つ。利用者の方からは、「昔の話ができる」と、喜ばれている。地域に貢献されていた方を皆さんに宣伝すると、御本人はテレながらも嬉しさがにじみ出ている。

最初は不安に感じつつ始めた活動でしたが、良い結果が出て感謝している。

## ❀ メッセージ ❀

独り暮らしやそれに準ずるお年寄りが、住み慣れた土地で安心して暮らせるよう手助けすることを目的に立ち上げたグループなので、常に社会の情勢を把握し、新たなことにも柔軟に対応するよう心がけている。

この活動をより効果的に実行するには、「民生委員」という立場であればやり易いと思っていたところ、やらせていただくことになり、早16年目に入る。多方面から地域に貢献できることに幸せを感じている。

# とちぎけんじゅうしょうしんしんしょうがいじ 栃木県重症心身障害児(者)を守る会

代表 会長 柴崎 博

住所 〒327-0805 栃木県佐野市犬伏中町1831-12  
TEL 0283-22-2787  
FAX 0283-20-6338  
E-mail hs2182@sctv.jp

## ❀ 目 的 ❀

同じ境遇にある重症心身障害児者をもつ親や家族が互いに手を携えて悩みや問題を解決し、地域社会の協力を得ながら重症心身障害児者の福祉の向上と幸せを求めることを目的とします。

## ❀ 事業内容 ❀

- ① 講演会、学習会、トレーニングセミナー等の開催。
- ② 定例会、相談会、座談会、親睦会等の開催。
- ③ 温泉療育キャンプ、療育相談会の実施。
- ④ 会報の発行

### 県南巡回療育相談 《平成 25 年 2 月 27 日》

2月27日(水)午後からあしかがの森において県南療育相談会が行われました。

相談者は栃木市の在宅の方が1名でした。足利病院院長椎原先生、看護師、指導員、リハビリの先生に加え、守る会のスタッフは柴崎支部長を含めた4名が参加しました。相談者が1名だったこともあり、じっくりと時間をかけて、お母さんの質問に答えることができました。

その後この方から、『親切にしてください有難かったこと、今はあしかがの森にリハビ

リに通っている』というお礼のはがきが届きました。はがきの表は、澤田直見という方によるやわらかな絵と詩が書いてありました。

頂いたはがきをここに紹介いたします。



(広報)

## ❁ 活動報告 ❁

特に力を入れて取り組んでいるのが温泉療育キャンプです。30年以上に亘って続けている事業ですが、途中で一度も途切れたことはありません。それだけ、障害者本人はもとより多くの家族が楽しみにしていたり、期待してくれているのではないかと思います。

近年の温泉療育キャンプはボランティアの方に協力をお願いしています。参加したボランティアの方は、言葉も話せない重症心身障害児者に対して手探りしながら相手をしているうちに、何となく通じ合える様になってくると言います。

そして、彼らはその事に感動を覚え、とても癒されると言います。また参加したい、是非次回も声を掛けて下さいと言う方が殆どです。

助成金は主にボランティアを始めとする参加スタッフの宿泊費の一部に当てています。たいへん貴重な財源として有り難く使わせて頂いています。

## ❁ メッセージ ❁

この事業を通じて重症心身障害児者の生きる尊厳を社会の人達に知って貰える機会になれば、との想いを強く持ちながら、これからも永く継続させていくつもりです。

### 参加者感想集

#### 温泉療育キャンプ

温泉療育キャンプに参加して

7月21・22日、鬼怒川 男鹿園の温泉療育キャンプに家族全員で初めて参加させて頂きました。

旅館の奥ゆかしき品のある豪華さと食事形態の配慮、お風呂に敷かれた畳に驚き、旅館の女将さんをはじめ従業員の方々やボランティアさん、スタッフの皆さんの温かさに触れ、とても楽しく過ごすことができました。

友亮は胃ろうの手術を受けてまもない状態で参加しましたが、西村先生の療育相談で色々な事を相談できとても良かったです。お風呂はボランティアさんに入れて頂きましたが緊張することなく、泣くこともなくリラックスして気持ちのよい顔をしていました。又、夕食後のビンゴゲームでは他の参加されていた方たちとも気さくにお話をする機会がも

て、そして2才になる二男までも参加させて頂き(ゲームに数字の玉を回しだす係)、はらはらしながらもとても楽しい時を過ごすことができました。

2日目のレクリエーションでは歌を歌いながら手足を動かしたり、大きなパラシュートで風や色彩的な刺激を受けて、大人も子供も楽しむことができ、自宅でも取り入れられるヒントを頂きました。

初めてのキャンプで不安もありましたが、温かい皆様のおかげで不安はいつのまにか消えていて、楽しい時間は時が速く感ずると思いますが、あっという間の2日間で、癒され楽しい時を過ごせました。

また、この会のおかげで視野が広がり、人という字の意味を改めて感じさせて頂き、とても感謝しております。

ありがとうございました。



療育キャンプのレクリエーション風景



療育キャンプのレクリエーション風景